

一般臨床医が取り入れやすい歯科界注目の画期的な咬合治療法！

非抜歯・床矯正・Pooによる 顎態調和法

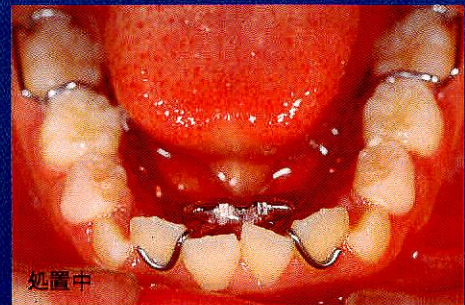
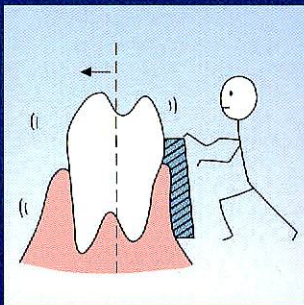
ライフサイクルからみた全身の健康と咬合治療法

著：荻原和彦 日本歯科大学教授
(歯学部附属病院小児・矯正歯科)

●A4判変形 208頁 上製本
●定価 (本体 28,000円+税)

本書の特長

- ▼DOS から POS の時代へ。「患者中心の歯科医療」を実践するために最適な著者考案の Poo テクニック。
- ▼基本的概念から臨床応用までを、イラストと写真 (カラー多数) 約700点によって、体系的かつ詳細に解説。
- ▼Pooテクニックによる顎態調和法は、歯列-咬合が全身の健康に深く関わっていることを基本に踏まえている。
- ▼その実践的で優れた臨床効果について、多数の症例を通して具体的に提示。



顎態調和法 (Ecology-Gnathology Orthopedics) とは

床を用いて歯列を拡大することにより、生体にとって望ましい方向に改善していく臨床テクニックである。これは生体的なエネルギーバランスとの相互関係、すなわち生態学 (Ecology) の範疇に入る。Orthodont は狭義では骨に作用することのない位置不正の矯正法を意味するが、顎態調和法は Orthopedic という概念をもって歯槽骨に作用させることを第一義としている。



顎態調和法の特徴

1. 一定の訓練により短期間で容易に修得することができる (診査・診断・治療方針を簡易化)。第一大臼歯より犬歯関係を重視する。
2. 小臼歯を抜歯しない。オーソドントからオーソペディックへ (後戻りが少ない)。
3. 固定式装置を使用しない (チェアタイムの短縮・齲蝕発生の減少)。
4. 顎外固定を使用しない (患者サイドになるべく負担をかけない)。
5. ただちに診療室に取り入れることができる (技工などバックアップシステムの確立)、特殊な機械器具が不要である。一般臨床医が導入しやすい。
6. 口腔清掃に際し複雑な手技・道具などを必要としない。
7. 短頭型人種 (アジア人種) に適したオリジナルテクニックである。

第一歯科出版

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-31-5-404 TEL.03-3779-1727 FAX.03-3779-1787

内容目次

序章 顎態調和法の成立経緯と将来展望

1. 顎態調和法の成立までの経緯
2. 顎態調和法の将来への展望

第I部：基礎編

第1章 矯正装置ならびに床矯正装置の概要

1. 固定式装置と可撤式装置の種類とその特徴
 - 1) 固定式装置の種類
 - 2) 可撤式装置の種類とその特徴
2. 矯正治療の歴史的展望
 - 1) 欧米の矯正史
 - 2) わが国の軌跡と方向性
3. 床矯正治療の歴史的展望
4. 小児歯科臨床と床矯正治療
5. 床矯正治療の目的と意義
6. 矯正治療における小臼歯抜歯
 - 1) 顔貌の審美性への影響
 - 2) 小臼歯抜歯の咬合に与える影響
 - 3) 小臼歯抜歯の歯周組織への影響
 - 4) 小臼歯抜歯と顎関節との関連
7. 非抜歯治療の歴史的背景とその手法（歴史は繰り返す）
 - 1) 矯正処置としての抜歯・非抜歯の流れ
 - 2) 日本における抜歯・非抜歯の流れ
8. 顎態調和法に必要な基礎知識
 - 1) 歯列弓の形態
 - 2) 咬合の発育段階
 - 3) 歯列弓の大きさの変化
 - 4) ジモンの顎態診断法
 - 5) 歯の移動の生物学的背景
9. 歯科医中心の時代から患者中心の時代へ
10. 床装置の特徴（長所と短所）
11. 床矯正治療の症例の選択

第2章 顎態調和法の診査・診断と治療計画

1. 診査上の特異点
 - 1) 初診時（問診は最も大切！ 診断は2つ行う）
 - 2) 小児と成人の共通する特徴ならびに留意点
2. 模型分析
 - 1) 従来の方法
 - 2) 顎態調和法の基本原則、診査手順
3. 分析結果の評価とその解決策への手法
4. 診断（カテゴリーは2つ、タイプは6つ）
5. 治療方針
 - 1) 重要度からみた治療優先順位と難易度
 - 2) 治療目標と正常咬合の基準とは？
 - 3) 診断と治療手順 ●正逆被蓋（カテゴリーⅠ） ●前突（カテゴリーⅡ）
6. 治療期間
7. 症例の選択（難易度など）
8. 費用の設定
9. 診査・診断・治療方針、予定治療期間の練習問題

第3章 研究会会員による質問集

1. 治療経過中に生じたアクシデント、トラブルへの悩み等について
2. 初診時における診査・診断・治療方針に関して
3. 治療経過中での治療方針、順序、装置の選定等について
4. 成人矯正に関すること
5. その他

第II部：臨床編

顎態調和法の特徴

第4章 顎態調和法のテクニック

1. 術前
 - 1) 印象採得と技工操作用石膏模型
 - 2) 装置設計の基本と注意点
 - 3) 顎態調和法で使用する器具とその使用方法
2. 顎態調和法の基本テクニック
 - 1) スクリュー・スプリングの基本調整
 - 2) 歯列弓の側方拡大
 - 3) 個々の歯の移動
 - 4) 歯列弓の前方拡大と前後拡大（サージタル装置）
 - 5) 顎位修正法（粥川の筋訓練法の応用）
 - 6) オクルーザルカバーテクニック
3. 装置装着時の手順
 - 1) 装着直前の装置の調整
 - 2) 装置装着時の最も重要な注意事項
 - 3) 装置装着時の指導
 - 4) 装置の取り扱い方
 - 5) 口腔清掃指導法（患者サイドに負担をかけない）
 - 6) 発音指導
4. チェックポイントとリコールの要領
 - 1) 一般的な注意事項（小児を叱らない、拡大量はオーバーめに）
 - 2) チェック時の実際（装置の浮き上がりに注意）
5. 治療中に発生する諸問題とその解決法
 - 1) 臼歯片側拡大のし過ぎ
 - 2) 前方拡大のし過ぎ
 - 3) 装置を入れてくれない
 - 4) 装置を破折した

第5章 顎態調和法による経過症例

1. 治療上の原則（基本的な治療術式）—Pool Five Stage Technique—
2. 症例〔症例1～18〕：前歯正被蓋、前歯逆被蓋、スプリング応用、臼歯のアップライト、反対咬合、開咬、叢生、前突
3. 不全症例〔症例19～24〕：外傷、先欠症例

第6章 顎態調和法の成人への対応

1. 成人矯正の特殊性
2. 成人矯正の需要
3. 臨床概要と重要なポイント
4. 症例：上顎前突

第7章 保定と術後の安定

顎態調和法における後戻りと保定

第8章 研究会会員による症例集

- 症例1～5：前歯正被蓋（正中離開、捻転、2/2 舌側転位）
 症例6～10：前歯逆被蓋（反対咬合）
 症例11～14：前歯正被蓋（開咬）
 症例15～22：前突（上顎前突、下顎後退）
 症例23～29：成人症例、前歯正被蓋（捻転、叢生、2/2 舌側転位、交叉咬合）
 症例30～31：成人症例、前歯逆被蓋（反対咬合）
 症例32～35：成人症例、前突（上顎前突、下顎後退）

第III部：歯列-咬合の調和と全身の健康

第9章 歯列-咬合の調和と全身の健康

1. 研究の動向
2. 病名について（TMJ、TMDなど）
3. こどもの歯列-咬合と咀嚼（最近の研究から）

第10章 歯列-咬合が全身の健康に関与していると思われる臨床例

- 症例1～8：肩こり、姿勢、乗り物酔い、反対咬合、前突、いびき、歯ぎしり、頭痛、顔貌の非対称、背中痛み、不正咬合、上顎前突、鼻づまり

郵便はがき

141-8790

102

(受取人)

東京都品川区西五反田2-31-5-404

第一歯科出版部
株式会社



非抜歯・床矯正・Poolによる顎態調和法 ()冊
お名前 ()冊

お名前

住所

TEL

指定納入店 / 直送希望 (いずれも送料は弊社負担です。)

必ずお名前を記入してください。

料金受取人払

大崎局承認

3128

差出有効期間
平成15年7月
31日まで

切手不要

注文書